

対話型オンライン保育合同研究会 保育施設基本情報フォーマット

園・施設名	社会福祉法人那の津会 えんげる保育園
経営主体	社会福祉法人那の津会
所在地	〒811-1344 福岡県福岡市南区三宅2丁目33番24号
定員	240名
理事長名	篠崎 信子
園長名	針間 和枝
採用担当者	針間 和枝
電話番号	092-512-6483
保育理念 保育方針 保育目標	<p><b>基本理念：</b> 「子どもは、未来の希望である」 園生活において、最善の環境が与えられ、乳幼児期人間形成の基礎作りをめざし、一人ひとりの子どもを尊重し大切に育てる。</p> <p><b>保育の基本方針：</b> 保育所保育指針に基づき ・ 養護と教育を家庭と一体に推進するように努める。 ・ 保育所の役割及び機能が適切に発揮されるよう、専門的知識、技術を常に研鑽し、子どもの健全な育ちに努める。 ・ 地域社会や利用者及び関係機関との連携を図り、子育てに関する家庭養育の補完を行う。</p> <p><b>保育目標：</b> 「生活と遊びのなかで様々な環境を考え、主体的に表現する」 ・ 健康で明るく元気に遊ぶ子ども ・ やさしく思いやりのある子ども ・ 創造力豊かな子ども ・ 腰骨を立て お話を聞く子ども</p>
保育環境	<p>西鉄大橋駅よりバスで約10分、住宅街の中にあります。近くに、公園や神社、小学校などがあり、散歩や園外保育では思い切り走ったり、自然のなかで遊ぶなどの経験ができます。子どもにとっての環境とは、子どもを取り巻くすべてのヒト・モノ・コトです。「人的環境」（友達〈同年齢、異年齢〉、保育者、保護者、地域の方）「物的環境」（園舎、保育室、園庭、用具や教具、子どもサイズで主体的に動きやすい環境）「その他」（自然現象や文字、数、記号または目に見えない音や時間、場の雰囲気や風土など）を大切にし、子どもの興味や知的好奇心が満たされるような環境づくりを行っています。各クラスには、モンテッソーリ教育の年齢発達に応じた教材、教具が整えられ、子どもが自由に遊び活動ができるようにしています。乳幼児期の子どもの場合は、スポンジのように何でも吸収します。よい環境を構成することで子どもたちの人間形成の基礎が育っていくと思います。だからこそ、日々の環境準備や整理整頓、子どもの援助の仕方など常に考えています。問法人に小規模保育園が5か所あり、常に連携をとり合うことができています。</p>
ホームページURL	<a href="https://www.angel-hoikuken.jp/about/#kii0090">https://www.angel-hoikuken.jp/about/#kii0090</a>
	《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。
	<p>「子どもは未来の希望である」という保育理念にもあるように、私たちは人間形成の基礎（根っこ）づくりに携わっています。保育の質を考えるうえで、子どもの最善の利益を保障していくことがとても重要だと考えています。ここでいう最善の利益とは「子どもたち一人一人が心身ともに健やかに育つことができる環境のなかで、人から十分に愛され、ありのままの自分でいることを認められて幸せに暮らすこと」です。そのため当園では、毎日のていねいな生活をともに過ごす中で「自分は大切にされている」という自尊心や自己肯定感ももてるような関わりをとても大切にしています。職員間で常に「対話」しながら、子どもの姿を基本として、保育理念や保育所保育指針等を何度も読み、「養護」や「教育」の視点を確認し、日々の保育に反映できるように努めています。また、子どもが生活と遊びを通して、主体的、自発的な活動ができるように保育者は環境を整えています。その中で、発達段階に応じたふさわしい経験や学びを積み重ね、少しずつ自分の思いを周りの人に発信しながら力を発揮していきます。保育の質を確保するために、保育者だけではなく、栄養士、看護師などと連携をとり、職員全体で意見を出し合える関係性を作り出しています。</p>
	「“保育の質”の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。
	<p>職員の共通理解や専門性を高めるために、常に園内研修に取り組んでいます。園内研修は、勉強会とケース事例会議があります。年間のテーマを決め、担当者がその月に事前準備や当日の進め方などをみんなの意見を基に考えていきます。子どもの様子から見てきたさまざまな事例を安全・保健・人権・遊び・給食などの分野から毎月、昼の1時間30分のなかで研修を行っています。職員間の対話を増やすことで、多様な意見や考え方を学ぶ機会となっています。単にスキルを身に付けることを学ぶのではなく、経験年数の異なる職員との意見交換することで、同じ方向を目標としながら保育を行うことができているように感じています。常に自己評価を行い自分を振り返り、評価を次に活かすようにしています。そして、研修で行った内容は、職員全員（非常勤職員、給食、その他職員）に見えるように、内容を掲示しています。それを見ながら、会話をしながらも共有しています。時には、保護者にも発信して行く機会をつくることで、保育の理解につながっているようです。その他、職員会議やクラスの運営会議等、職員間が共通理解を図り、どの職員も意欲的に自信をもって保育に関わることができているように感じます。また、外部講師による実践研修や園外での研修も多く取り入れています。（現在はオンライン研修がほとんどです。）このように、研修での学びが多いことで保育者も保育の質を意識しながら日々の保育を行うことができていると感じています。</p> <p>働きやすい職場づくりとして、ICTを取り入れ業務を軽減したり、ノンコンタクトタイムの導入、行事の簡素化、子育てマスターの活用などを行っています。保育者の負担が軽減することで、心身共に健康でさやかに保育に向き合えることも大事にしています。</p>
	学生の就活において「職員同士の“人間関係”」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。
	<p>保育園は人と人が関わりをもって行く場です。職場の人間関係が良好でないと子どもへの影響もでてくると思います。職場には、多様な価値観をもった人が存在しています。保育園だけだけでなく、職場という環境は価値観の違う人が集まり、そのなかで信頼を築き、目標に取り組み仲間として一員になっていくのです。そのなかで、多面性、多様性、個性豊かな人に出会った時、相手を受け入れたり、認めていくことが大切になるのではないのでしょうか。また、意見や考え方の違いに戸惑うこともあるかもしれませんが、物事の解釈をするときに、否定的に捉えるのではなく、肯定的に感じることです。肯定的に感じると、物を見方も変わり人間関係が良好になり、いつも気軽に尋ねたり、話し合えるようになります。近年、就活において「職員同士の人間関係」を重視していることが話題になっています。しかし、どの保育園でもさまざまな取り組みが行われていると思います。まず、実際に見学や実習に行き、自分に合う職場を自分の目で見て、体感してみつけて下さい。出会った職場を信頼し、自信をもって新しい環境にとび込んでほしいと思います。</p>
	乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。
	<p>乳幼児期の子どもの人権を大切にすることを重要視しています。保育者が一人一人の子どもが興味関心に気づき、共感しながら生活や遊びを共にしていくことだと思います。また、子どもと対等に向き合い、一人の人間として関わりをもっていきます。保育者は謙虚な姿勢をもち、子どもがしていることにすぐに手を出したり、言葉をかけないように配慮をして、観察を行います。じっくり子どもを観察していると子どもから必要とする手だてが見えてきます。子どもを信頼することで情緒が安定して、自分の思いを安心して発露できるような関係が大切であると考えます。そして、子どもの個性や特性を理解して、公平にその子にあった関わりをもてるように意識しています。保育を行っているなかで、子どもを観察していると、保育者が「すぐに手や口を出してしまいたいこと」がたびたび出てきます。それは、子どもが挑戦したり、自ら考えたり、失敗したりする経験をとり上げてしまうことにつながります。しかし、子どもはどんな時も自分で考え、試行錯誤する力を持っています。自分の力で伸びようとする「自己教育力」をしっかりと受け止め、一人一人の子どもを理解することを大切にしています。</p>
	生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。
	<p>生活習慣の自立に向け、取り組んでいることとして、モンテッソーリ教育の「日常生活の練習」という分野を土台にしています。例えば、「手を洗う」ということについても行動の分析を行い、「蛇口の開閉」「石鹸の使い方」「手の洗い方」「手の拭き方」などひとつひとつを取り上げて、実際にやって見せていきます。子どもがわかるペースでゆっくりとゆっくりと何回でも提示をします。実際、子どもは「やってみたい」という意欲があるので、興味を示し行います。その時に、うまくいかない状況になっても決して注意をすることはなく、教えていきます。すると、何度も繰り返しているうちに、子どもは「できた」という満足感を味わうときがあります。その瞬間を見逃さず、一緒に共感し、自信を積み重ねていきます。子どもが「自分でできるようになりたい」という気持ちを大切に、生活習慣の一つひとつをこのようなやり方で繰り返し教えています。すると、1歳児の子どもも登園してきてから自分たちでタオルやコップの準備をして生活を整えていきます。子どもができることは「自分です。」大人は、困っていることを教えたり、さりげない援助するだけで十分だと思います。</p>
学生へのメッセージ	<p>保育に関わる仕事は、毎日ドラマがある素晴らしい職業です。いろいろな気づきや発見があり、子どもからたくさんのお話を聞かれています。保育士は専門職であり、「子どもが好き」という心根だけでなく、専門的な知識や発達段階の理解などが必要です。そして、子どもと生活を共にしますので、生活体験や生活の知恵が役に立ちます。最近、さまざまな保育園があります。ぜひ、自分で実際に体験してみたい。保育現場の職員は一生懸命に保育に夢中になり取り組んでいます。保育体験や事例を捉える時に、子どもや保育者の理解につながるような視点で観察をしていくと実際働くと、見え方が変わるように思います。そして、学生時代にしかできない遊びや体験もできるだけ挑戦しておくことも大事です。保育が変わろうとしている時期、一緒に保育を考えていきましょう。</p>